

静かな空

連絡先 742-2602 山口県大島郡周防大島町油宇 福田忠邦 Tel+ Fax: 0820-75-1045

2017年2月16日 文珠山上を乱れ飛ぶ日米軍用機

＜行動の写真集＞から転載



朝の 11 時過ぎから吹きっさらし文珠山展望台で待つこと 5 時間。

16:15 海上自衛隊 US-1A 救援飛行艇（岩国基地）が頭のすぐ上に飛んできました。



16:35 海上自衛隊 UP-3D 訓練支援機（岩国基地）



16:** 海上自衛隊 UP-3D 訓練支援機（岩国基地）

これは文珠山頂上と同じ高さを飛んでいます。



17:13 米海兵隊 KC-130J 空中給油機

スーパー・ハーキュリーズ

ついに文珠山に F-35B

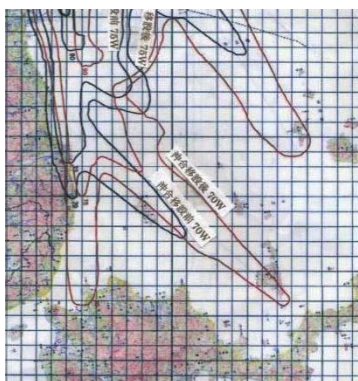
17:14 米海兵隊 F-35B ステルス戦闘機（岩国基地）VK, 09 番機、04 番機、10 番機、00 番機の 4 機の中の 2 機が文珠山展望台のそばへ飛んできました。岩国基地着陸は 10 分後、17 時 24 分です。



この2機のなかの1機です →



騒音コンター「なぜ周防大島町の騒音が増加するのか」



左図：2016年現在の騒音図
一番外の赤線は騒音度70Wの線

右図：移駐後の騒音予測図
一番外側の赤線は騒音度70Wの線。(中国2.14)



1月20日、岸外務副大臣、宮沢防衛政務官が山口県へ来て、「7月以降に厚木基地の艦載機を岩国基地へ移駐する」との計画を通達しました。これにたいして村岡山口県知事、福田岩国市長は、1月31日、中国四国防衛局長にあてて「空母艦載機の岩国基地への移駐について（照会）」という質問書を提出し、23項目にわたる疑問点にたいする回答をもとめました。

このなかで、艦載機移駐以後に予想される騒音区域を示すコンター図について、「平成18年に作成した艦載機移駐後の航空機騒音予測コンターと比べて、今回提示の航空機騒音予測コンターの70Wの区域（特に周防大島町）が増加しているのはなぜか」との疑問を呈しています。

現状では西コースの70W区域は、三蒲にかかるところで止まっていますが、移駐後は70W区域が内陸に深く入り込んできます。また現在は柱島の手前でとまっている東コースが、右図では逗子が浜・小伊保田に達しています。

70W騒音の区域がひろがれば、当然周防大島町全域の騒音が激しくなります。山口県知事と岩国市長の「質問書」はこのことを問いただしているのです。

これまで山口県は、大島郡の騒音が増加することを、口頭では認めていましたが、公の文書に明記して追及したのはこれが最初ではないかと思えます。県知事がどれだけ強く追及するのかは、まだわかりませんが、艦載機移駐の現実への理解が少し深まったのでしょうか。

しかし、3月6日の市議会で福田市長は開催機移駐後、「(滑走路沖合移設以前とくらべて)全体として悪化する状態は生じない」と述べました。岩国市民にたいする発言ですから、周防大島町の環境悪化は問題にならないのです。村

岡山県知事も県議会で「地域差はあるが、全体として悪化しない」と述べました。(中国 3.7)。周防大島はやはり彼らの問題意識にはのぼらないようです。

肝心の周防大島町長が、この点をどう認識し、国にたいしてどう主張しているかは、わかりません。爆音が増大する周防大島町の町長は、町民の安全で平穏な生活を守る任務を果たすために、艦載機移駐によって確実に環境が悪化するといわれている地元自治体の代表者として、県知事、岩国市長より強い姿勢で艦載機移駐に反対の立場から国にたいして発言していただきたいものです。

2月28日の中国四国防衛局長の回答について山口県と岩国市は、「70Wの区域(特に周防大島町)が増加したのはなぜか」にたいして、「①空母艦載機機種FA-18の4飛行機がすべてスーパーホーネットの飛行機に変更されたこと②空母艦載機の機数が61機に増えたこと③空中給油機KC-130の機数が12機から15機に増えたこと、④海上自衛隊の航空機17機が岩国飛行場へ残留したこと、⑤F-35Bなど岩国飛行場に配備された米軍及び自衛隊の航空機の機種、機数に変更が生じた」などの分析結果を発表しました(引用は記者から提供された「報道資料」による)。基地はそのままでも、機種・機数の変更によって爆音被害が大きく変わることの典型的な事例です。(3月2日各紙報道)

周防大島町議会 岩国基地関連対策特別委員会 任命

周防大島町議会は、昨年11月22日の臨時議会で、「岩国基地関連対策特別委員会」を任命しました。議会運営委員会が委員7名の原案を作成し、「少数意見」もあったとのことですが、総会では原案どおり了承されました。久保雅己(委員長)、新山玄雄(副委員長)、平野和生、松井岑雄、尾元武、小田貞利、荒川政義

岩国市長 艦載機移駐について「住民説明会」開催

瀬戸内ネットは昨年12月1日の岩国市長への申入れ、12月20日の県知事への申入れで、F35Bの岩国への持ち込みについて、住民説明会を開催することを求め、瀬戸内ネットも加わっている「もう我慢できない際限のない基地強化、F35B配備反対市民集会実行委員会」も12月2日の岩国市長への申入れで、住民説明会開催を求めました。これに対して市長は応ずることなく、F35B 10機が岩国基地へ移転してきました。

しかし再三の「住民説明会」を求める声にたいして、福田市長はついに2月23日市議会で、「空母艦載機61機が移転する計画」について、岩国市として最終的に判断するときには、住民説明会を開催するとの考えを公にしました(TV各社 2017.2.23; 中国 2.24)。ただし国に住民説明会開催を要望すること

はしていないので、岩国市のみによる住民説明会になる見込みです。

山口県知事はこれまで一貫して「今以上の基地の強化は容認できない。地元の意向を尊重する」との基本姿勢を守ってきていますので、山口県と岩国市は「住民説明会」の開催については共同の方針をとるものと考えられます（昨年11月7日瀬戸内ネットが山口県総務部岩国基地対策室へ申入れしたときの記録を参照）。

2006年3月12日、時の井原岩国市長のもとで、艦載機移駐を容認するかどうかについて住民投票がおこなわれ、全国民が固唾をのんで見守るなかで、岩国市民は圧倒的な比率で「移駐反対」の結論を出しました。それ以来、最大、そしておそらく最後の山場がくることとなります。

県知事と岩国市長は、連名で国に提出した照会文書（2017年1月31日）のなかで、艦載機が移駐したら「特に周防大島町の騒音が増加する」ことを公に認めています。当該自治体の周防大島町長は、当然、艦載機移駐の可否について、周防大島町民に説明し、町民の意見を聞く必要があります。町民の生活環境を守る使命を担う椎木町長も、当然、住民説明会を開催するでしょう。住民側はそれに対する心支度をしておかねばなりません。

北朝鮮 弾道ミサイル発射 在日米軍を標的にしたか 艦載機移駐 ⇒ 岩国・沖縄は戦場に

2月6日、北朝鮮は日本海に向けて弾道ミサイル4発を発射しました。日本に駐留している米軍を攻撃の目標にした、実戦的な訓練だと言われています。沖縄、岩国など、日本全土にひろがっている米軍基地が、米軍再編によって一段と強化されていることに対抗する、北朝鮮の演習でしょう。厚木基地の艦載機が岩国基地へ移駐すれば、岩国基地は東アジア最大の米軍基地になるので、岩国と沖縄が攻撃の最大の標的となることは確実です。

軍事評論家は、日米安保によって米軍が総反撃するから、北朝鮮もすぐには戦争を起こさないなど、気楽なことを言っていますが、日米安保条約による米軍の報復攻撃によっても、北朝鮮が一気に全滅することはなく、米軍が攻撃を展開している中近東アラブ諸国のように、終りのない戦乱が続くでしょう。そのとき被害を受けるのは米軍基地をかかえている地方です。

日本が「米軍再編」によって米軍基地を強化していることが北朝鮮を刺激していることは明らかです。米軍の軍事力を頼ってのギャンブルは大変危険です。なぜ軍事的対抗によらず、北朝鮮との間に平和交渉をすすめる努力をしないのでしょうか。山口県、岩国市と周辺自治体は、まず艦載機移駐を阻止して岩国基地強化をやめ、基地周辺住民の安全と平和を守る努力をすべきです。

私の第二次世界大戦と戦後

私は 15 歳のとき満州へ行って満鉄に入りました。兵隊じゃないです。鉄道の本部に行ったのです。運輸省の本部です。昭和 6 年（1931）に日本が満州を占領したですね。私はそのあと昭和 15 年（1940）に行ったのですが、まだゴロゴロ路上に人が死んでいるんですよ。50 メートルおきぐらいにいっぱい死んでいる。食べるものがなくて。米が盛ってあるけれど、お腹がすきすぎると、あげても食べられないのです。それが翌日になったら全部丸裸。着るものがない。はぎ取られてしもうたのです。男も女も皆はぎ取られた。日本が占領した満州です。そこへ私は昭和 15 年（1940）に行ったのです。

満州国 昭和 6（1931）年 9 月満州事変勃発。1932 年 3 月「満州国」建国宣言。1932 年 7 月日中戦争開始。

昭和 15（1940）年 9 月 日独伊三国軍事同盟条約に調印。

戦争というものは哀れなものじゃ。戦争やって日本が勝ったんじゃないやろうが、負けた中国人はこがえになるのか、と思いました。路上に死んじよるんです。それにまた蠅がたかって。そんな時代に行ったんです。

私は満鉄のサラリーマンでした。満州で徴兵検査を受けて、甲種合格になりました。弟が松山の航空隊にいたんじゃないが、最後だから、いつ死ぬかわからんから、ちょいと面会したら気が済もうかと思うて、日本に帰りました。帰るのに 3 日かかりました。

私は興安丸という 5000 トンの船で帰りました。一番小さい船じゃったんじゃないが、それが舞鶴へ着いたから、おふくろが迎えに来た。「岸壁の母」です。それでこちらへ帰ってきたんじゃないが、その頃は同僚がまだ 40 人いました。おふくろを連れて、柳井から防予汽船で渡り、松山へ降りて豆自動車を拾うて、松山航空隊へ行ったら、弟が出てきました。30 分ぐらい話をしました。その頃、大島から予科練を志願した人が、沢山（松山へ）行っていました。私は 5 月 22 日に関東軍に入隊ということになったんで、親ぐらい見ておこうかということで、一度戻ってきたんです。

旧関東軍というのは世界一強い陸軍じゃった。関東軍の司令長官もよく覚えています。梅津美治郎と言うてね。内地でも大臣かなんかになったはずですよ。それが関東軍の司令官じゃった。関東軍は世界一強い陸軍じゃったんじゃないが、

全部南方へ、ラバウルとかどことかへ行ってしまった。1万人、2万人、5万人死んだということで、兵隊が足りなくなったんで、満州から兵隊を送ったんです。

そのときに朝鮮の関釜連絡船に 8,300 トンの崑崙丸（輸送船）がおったんじやが、それが日本から送られた荷物を全部積んで釜山へ運んだ。ところがそれが沈没した。荷物は全然ついてない。なんにもない。

私の所属した部隊は、291 部隊と言われました。ジャムス 291 部隊というところに入隊したんです。私は 20 歳でした。291 にいた期間は短かった。戦後のソ連捕虜のほうがずっと長かった。

関東軍に入隊すると、一日中山を歩いた。それが「検閲の基本」じゃった。「検閲の基本」というのは「一軍人として大義名分が通るぞ」と認められる検閲です。それを通らなけりゃ、なんぼ甲種合格でも 1 人前の兵隊とはみなしてもらえんよ。

これで一期の検閲がすんで「爆弾 3 勇士」をやったのです。「爆弾 3 勇士」というのは、爆弾をかかえて戦車の下にとびこむのです。「特攻隊」と同じです。太平洋戦争ではこの部隊が一番最初じゃった。

爆弾三勇士 上海事変（1932）で、国民革命軍が築いたトーチカで守られた敵陣に突入するため、3 人の兵士が点火した破壊筒をもって敵陣に突入し、鉄条網破壊に成功した。もちろん兵士 3 人も戦死したが、荒木陸軍大臣がこれを「爆弾三勇士」と命名して愛国美談とした。（ウィキペディア）

8 月 7 日に戦争が始まった。残り者の兵隊がよ。熟練した兵隊は全部南方へ取られてしもうたけえ、47 歳というような、わしらの 2 倍もの年の兵隊がやるんで、ことにやならんよ。それが弾を一発入れてはカチッカチッと。それが向こうはこれぐらいの「マンドリン」を肩にかけて、ダーとやるんじやけえ、かなわんよ。それがわしに当たった。

草の中を通っている時、1 メートルぐらいの草があったから、その中を通って近づいてからと思うた。他の 4 人は兵舎の裏を通って向こうへいていた。そしたら兵舎を撃ったもんじやから、兵舎がきれいに飛んでしもうた。死んだよね、4 人とも。わしは草の中を通っていったんじやが、貫通銃創で腹を突き抜かれた。痛うてもてん。軍医もまともな薬を持っていない。器具も治療薬もない。負け戦さじやから。「ちいと痛いかもしれんが、切る物がないから」という。痛かったよ。麻酔も何もない。参った。あれはいまだに覚えちよるよ。

8月7日、朝7時に出た。「爆弾3勇士」で出て行った。だから命もろ共と思うたよね。7時に出て、間もなくやられた。他の者は死んだ。わしは生きて前に進みよったんじやが、1人だけ草を動かすから目立つんです。「ダァァァ」とマンドリンでやられた。

マンドリン 大量生産しやすく頑丈な短機関銃。第2次世界大戦中のソ連兵が使った。丸いドラム型の弾倉を備えた形から、ドイツ兵は「バラライカ」、日本兵は「マンドリン」と呼んだという。（インターネット「DNA デイリイ・ニュース・エイジャンシー」などによる）



あれでねらわれたけえ、いやでも当たら一ね。そがえにして、結局は（ソ連軍が）陣地まで上がってきたんです。生き残って腕がなくなったり、足がなくなったりしたものには手榴弾を一発あて渡した。（これで自爆せよということであろう）。こっちは負け戦じゃけえ逃げにゃならん。夜の中に1個大隊、500人が逃げたんです。私はここを（胸をさす）やられているから、それでもまだ軽い方だったが、手がなくなったり、足がなくなったりしたものが多かった。輜重隊といって糧秣隊（食料輸送部隊）、あれにカグリついた。命を取られてはどもならん。ここはどうしても生きなきゃいけんけえ、あれにカグリついて逃げた。糧秣隊、あれに救われたんです。

そのあとで捕虜になった。東京場（トンキンジョ）といって、そこには日本兵が5万人集まっていた。行ってみたらホンマに盗人みたいな者ばかり。食べ物がない。戦争に負けたのはいいが、高いところから速射砲や機関銃や銃を皆捨てたでしよう、谷に。銃を谷に捨ててバンザイをして出てきたんです。

今から東京に帰るんだという。赤の嘘だった。「東京ダモイ」というので、これは違うぞ、と思うた。わしらが見たらすぐわかる。（満鉄の）鉄道じゃけえ。これは東京へ帰りはせん。北へ行きよる。なあに東京へ帰ろうかい。バイカル湖へ行ったんです。25日乗って、途中で大分死にました。時速70キロぐらい。昼夜兼行ですよ。貨車の四隅には兵隊が銃を持って立ちよる。首ものぞけられん。夜ワラを取りに行つて、貨車の中へワラを全部敷いて、そのうえに乗ってバイカル湖へ着いた。

行った所は2メートルぐらいの雪じゃ。その雪の中へ寝た。10月頃です。毛布を敷いたりして。そのうちに幕舎ができた。幕舎の中でストーブを焚いて飯盒炊さんをやる。これも軍隊生活ですよ。ストーブの火が冷えたら「誰かっ」と呼ばれて、頬ベタを殴られまわった。終戦になっても軍隊ですよ。飯盒の中

のスープを入れる中子へえんどうが 50-60 粒入ってる。ほとんどおつゆです。それで重労働です。みんなだめになる。みんな栄養失調になった。私も栄養失調で 3 ヶ月病院に入院した。それでも病院は栄養を与えるからまだましだ。

ソ連の診察というのはちょっと違う。日本のように聴診器を使わない。しりばたをいろろう。尻ばたでわかるんじゃないかね。こうつまんで・・・(それで体力を測る)。1 級になると土木の一番えらい仕事、2 級は大工仕事、3 級になると営内仕事、掃除等。独ソ戦争が始まったから、シベリアへ送る食糧などはない。

(両手で輪をつくって) こんな大きな木が雪の中にいっぱい転がっている。これを船に積んでバイカル湖を運ぶ。100m ぐらい山を掘って、爆薬を 70-80 ぐらい詰め込んで、導火線を引いて、山を崩して、枕木を敷き、レイルを敷き、貨車を前に伸ばしていく。3 交代です。手作業で、スコップで山の土をなくして、鉄道を敷く。シベリア鉄道を 400 キロ作った。零下 60~70 度ですよ。

60 万人の人が入ったという。女の人もいた。頭を綺麗に剃って男みたいにして、軍隊の帽子をかぶっていた。そうしないと悪さをされる。そうして男にまじってやっていた。しまいになんかどうなったか知らん。長い人は私たちが帰ってから後も、10 年ぐらいいた人もいた。

私は(捕虜生活) 5 年じゃった。4 年半ぐらいすると、帰るときに賃金をルーブルでくれた。それまでは無給です。ドイツ人が来て監督をする。ドイツ人が 20 年とか 50 年、一代もの(の捕虜)です。ゲルマンスキー(ドイツ人)がいっぱいいた。

これが、私が体験した第二次世界大戦と戦後です。

(2016年8月 周防大島町民 談)

戦争は私たちには関係ない、遠い昔の出来事、どこか他の国の出来事と考える人がふえてきました。これも時代の流れといえ、やむを得ないことかもしれないませんが、いま私たちが住んでいるこの大島で、多くの先人たちが戦争に駆り出され、命を失ったという事実を忘れることは許されません。

あの時代、戦場で悲惨な戦闘に従事し、幸いにして祖国に帰ることができた人たちも、年々少なくなってきました。こういう人たちの、言うにいけない戦争体験を、私たちはしっかりと聞き取り、今後二度とこの悲劇を繰り返さないために、いま私たちに出来ることをしなければならぬと思います。そのため私は、地元の方にお話しを伺い、それを記録しました。

あの過ちを二度と繰り返さないために、この記録から、戦争とは何かをしつかり読み取っていただきたいと思います。

記録文責 河井弘志